

居合道 だより

第 187 号





はじめに

「鯉口を切る」

居合道部 理事 橘 菌 一

日々、居合道を修練しているわれわれにとっては、鯉口を切るときは刀を抜くための最初の大事な動作で、特別な意味があつたのことはありません。しかしこれが江戸時代であれば大きく違ってきます。

江戸時代の武士は常に尚武の気構えを要求され、いざ命のやり取りの場面に遭遇すれば、怖じけず果敢にその時に向つて刀を抜き合はせ戦わなくてはいけないことが、武士である

がために求められる大事な要素でした。江戸幕府は、刀の長さを規定するだけでなく刀そ



のものに武士であることに、その精神性を求めたのではないのでしょうか。

ではどの段階で、江戸幕府は「しっかり相手と対峙し、逃げることなく戦う意欲を表現した」と判断するのかというと、鯉口を切っておればよいというものでした。刀を抜きだす途中で、たとえ負けたとしても立派に戦う意思があったということが認められ、おどがめはありません。しかし、もし怖じけて鯉口も切らず戦おうともしなければ、武士にあるまじき行為として蔑（さげす）まれ、お家断絶にもなりかねない大きな罰が下ります。このようにして「鯉口を切る」は武士には大事な行為であり、刀が一家を左右する大きな役割を持っていました。いつ、そのような場面に出くわすか分かりませんので、外出する時には常に帯刀しておかなくてはなりませんし、家に忘れたでは当然済まされません。武家の奥方が、主人が出かけるときに大切に渡す意味が分かります。

ある奉行所の役人が、人殺しの現場にいち早く着いてみると、友人がいきなり斬られた現場でした。しかしこの友人は「鯉口を切っていない、これでは彼の家は断絶し意気地なしの不名誉をかぶせられ、残る家人は浪々の身となる」... とそう察したその役人は、まだ奉行所の他のものが到着する前にその鯉口をそっと切って上げたそうです。武士の掟が厳しい時代にあって、なんと「武士の情け」のすばらしいことでしょうか。

「鯉口を切る」には、このように重たい意味合いがありましたが、今や時代も違いますし、われわれは人間形成の手段として居合道を楽しませてもらっています。江戸時代でなくてよかったとつくづく思います。

以上

主な活動

1月9日

新年稽古会

福剣連

福岡武道館



2月・3月の予定

2月27日

地域稽古会（飯塚）

庄内交流センター

3月13日

福岡県居合道段位審査会（初～五段）

福剣連

福岡市総合体育館

（新型コロナウイルスの感染状況により変更になる場合がございます）

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第187号 令和4年2月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田36番地-1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社 FEW